
遺産相続

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遺産相続

【Nコード】
N11421

【作者名】
タケノコ

【あらすじ】
とある大富豪は死期が迫り、己の資産を相続させる相手を選ぶため自分に親しい人達を病院の一室に集めた。その莫大な遺産はいつた誰の手に……

(前書き)

素人の小説で拙いですが読んであげてください。

とある大富豪は、病院のベッドに寝そべり、最後の時を迎えようとしていた。

「……ケホッ、ゲホッ……すまない……皆にここに集まってもらって感謝している」

富豪の狡猾な長男と貪欲な次男、そして忠愛犬ネーム、信頼する親友の医師におじ思いの姪っ子の看護師、義兄弟の契りを結んだ立会人をも務める実直な弁護士が富豪を囲む。

というのも、この場で遺産相続の話がされることになっていたからだ。

「……みな、聞いてくれ……この場にいる……ものの中で……わしの死に様を見て、真っ先に泣いたものに……全ての……遺産を……与え……る……」

言い終わるやいなや息絶え、目を閉じる大富豪。

「兄弟……まだ行くな……」 「親友待て……」

「おじ様……」

次々に周りから声があがる。

それを見るや富豪の長男は俯き、あらかじめ準備していた目薬を自身の右目に注ぎ、また、次男は後ろを向き自分の頬を強烈に抓った。

両者は拮抗する迅速さで、他の人を僅かに凌駕し涙を流した。

最後の頼みを任されていた男は涙をハンカチで拭い――

「……私は、立会人としての仕事を果たしたいと思います」

弁護士は、遺産相続の対象者に赤く腫れる目をやり。

「あなたに遺言通り、全財産をお渡します」

そう言うとき大きな茶封筒を差出した。

「どうぞ、受け取ってください」

その相手は涙に滲む大きな黒い瞳で――

「……クウーン……」 表情は心痛なほど暗くて……。

「おしまい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1142i/>

遺産相続

2010年11月10日02時46分発行